資料２

障害者スポーツセンターの在り方に係る主な論点（案）

＜ビジョン・目標＞

（いつでもどこでもスポーツを楽しむことができる環境の実現に向けて）

○　障害の有無に関わらず、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を実現するためには、まず、全ての地域において、身近なところに障害の有無に関わらずスポーツ実施環境を整備することが必要。

（障害のある人にとって「望ましいスポーツ環境」とは）

○　全ての地域で、障害のある人の身近なところにスポーツ実施環境があるためには、その前提として、障害のある人の様々な生活環境において、スポーツが身近な環境となることが必要であり、生活の場や、生活の場に最も近いスポーツ施設や社会教育施設など、障害のある人にとって、アクセスが容易な場所でスポーツに楽しみやすくする環境を整備することが肝要ではないか。

○　特に、生活の場の近くに存在する身近なスポーツ施設が、障害のある人にとって使いやすく、アクセスしやすいものであることは、障害のある人のスポーツ環境を考える意味で決定的に重要。広く全てのスポーツ施設が共用で、障害の有無に関わらず、利用できる環境が特に重要。

○　身近な施設が利用しやすい施設となる前提として、例えば、全てのスポーツ施設に障害者スポーツ指導員が配置される、障害者施設にスポーツ指導に知見を有する人材が増えるなど、障害者スポーツに関するノウハウを持った人材が、より身近に計画的に配置される状況を作っていくことが重要。また、既存の利用者の、障害のある人の利用への理解を広げ、利用に当たっての心理的な障壁を下げることも必要。

（障害のある人のより身近なスポーツ環境を支える拠点の重要性）

○　一方で、障害者スポーツに関する知見や人材の育成は、障害のある人の利用が多い障害者スポーツセンターなどの施設に蓄積されることが多く、それ以外のスポーツ施設が十分有していない高度かつ専門的な知見やノウハウも一定程度あると考えられる。障害のある人の利用に重点を置く施設においてこうした知見やノウハウを集約し、より身近な地域での障害者スポーツの活動や機会の創出に向けた広範な支援を図るべく、広域レベル（都道府県レベル、地域の実情に応じて政令市レベル）に１つは、そうした障害者スポーツの振興の拠点を整備することが好ましいのではないか。

（スポーツを「ともに」楽しむことの重要性）

○　こうした拠点の整備とともに、障害のある人がスポーツを楽しむにあたっては、どこに

おいても、安心してともにスポーツを楽しむ仲間が必要であり、広く障害のある人が仲間とともに参加できるクラブやチーム等がある環境が期待される。また、障害のある人がそうしたスポーツ活動に関する情報を入手しやすい環境が望まれる。

○　実際に、障害のある人でスポーツを実施していない人の多くが、スポーツに無関心であることや、自身にスポーツができることを知らないこと等があるという実態もある。そうした人が、適確な情報や支援を通じて、運動やスポーツに関心を持ち、本人のやりたいスポーツに出会い、日常生活の中で身近な場所でスポーツを楽しめる状況、「Sport in Life」が実現するようにすることが重要。

○　こうした情報や支援を入口に、障害のある人が仲間とともに行うスポーツ活動や、障害のある人の活動を障害のない人が支えながら行うスポーツ活動、障害のない人とある人がともに楽しむスポーツ活動など、多様なスポーツ活動が展開され、スポーツを通じた共生社会の実現に寄与していくことを期待。

（当面の目標）

○　こうしたビジョンを踏まえ、障害者スポーツ振興に係る当面の目標としては、

・　障害のある人にとって、生活の場を含めたアクセスが容易な場所で、スポーツに楽しみやすくする持続的な環境の整備を目指すこと。特に、全てのスポーツ施設やスポーツクラブにおいて、障害のある人がアクセスしやすい環境を目指すほか、障害のある人の受け入れに対して既存の利用者の理解が広がるような啓発を進めるとともに、利用しやすさの基盤となる、障害者スポーツに知見を持ち、障害のある人にスポーツ指導できる人材の確保や配置が期待されること

・　こういった取り組みを支える基盤として、広く障害のある人の身近なスポーツ環境の整備を支援する、障害者スポーツ振興の拠点を広域レベル（都道府県レベル、地域の実情に応じて政令市レベル）ごとに整備すること

・　拠点が中心となって、障害のある人が安心して仲間とともにスポーツをすることができるよう、クラブやチームの活動の状況などに関する情報を収集及び発信する仕組みを整備すること

・　これらの取り組みを通じ、障害のある人もない人もともにスポーツを楽しむ環境の整備につなげ、多様なスポーツ活動の実現につなげること

等が考えられないか。

＜障害者スポーツセンターの役割＞

○　障害の有無に関わらず、いつでも、どこでもスポーツを楽しめる環境を整備するためには、特に、

・　障害のある人１人１人にとってより身近な地域の公共スポーツ施設等に対する障害者

スポーツに係るノウハウの提供、指導や助言

・　域内の障害者スポーツの指導にあたる指導員育成などの人材の確保と育成

・　当該域内における障害者スポーツに関する一元的な情報（活動場所、クラブやチームなど）

等が必要。広域における障害者スポーツの振興の拠点となる障害者スポーツセンターが、域内各地域の活動拠点を支え、育てる観点から、地域におけるこれら機能の「ハブ」としての役割を担うことを期待。

○　また、地域には、広く地域の障害者スポーツの普及を担う障害者スポーツ協会があるほか、各競技の障害者スポーツ団体、障害者スポーツ指導者協議会など、障害者スポーツを支える様々な団体が存在する。また、障害者スポーツを支援するボランティア関係者の存在も大きい。

これからの障害者スポーツの振興に当たっては、こうした障害者スポーツ関係団体間の連携はもとより、スポーツ以外の障害者スポーツに関わる様々なステークホルダー（医療、福祉、教育、民間企業、研究機関）間の有機的連携を構築していくことが重要。障害者スポーツセンターは、地域の障害者スポーツ協会とともに、広域における障害者スポーツに携わる関係機関・団体の中核として、ネットワーク形成の主たる役割を担うことが期待される。

この際、地域における障害者スポーツに関わる関係者やリソースをつなぐコーディネーターやコンシェルジュなどを配置し、ネットワーク形成を促進することが考えられないか。

○　なお、障害者スポーツの振興をより持続的かつ効果的・効率的に行う観点から、障害者スポーツセンター、障害者スポーツ協会等の人員体制等を踏まえ、障害者スポーツセンターの有するノウハウを最大限に活用しながら、適切に役割分担を行うことが必要である。

また、適切な役割分担とともに、次世代の障害者スポーツ振興を担う人材の育成等を十分に行うことができる体制を構築することが必要である。

＜障害者スポーツセンターに期待される機能＞

○　障害者スポーツセンターは、自身にスポーツができるかわからない、どんなスポーツができるかわからない、どのスポーツができるかわからない、そういう状況の障害のある人が安心して最初にスポーツに触れ、日常生活の中で自らスポーツを楽しめる状態になるまで支援する場であり、障害者スポーツに関する指導などの様々なノウハウが蓄積される場である。

そして、スポーツに親しむことができるようになった人を、より自分の身近にあるスポーツ施設や活動の場につないでいくことが、センターには期待されているのではないか。

具体的には、

・ 障害のある人をスポーツに導くネットワークの中核としての、リハビリテーション病

院等医療関係者、学校関係者等との連携

・ スポーツをこれから始める障害のある人に対する安全に配慮した指導（その人にあったスポーツの選択に関する助言を含む）
・ 障害者スポーツ活動実施に係る全般的なノウハウの蓄積（スポーツ指導、情報保障など）
・ 視覚障害、聴覚障害を有する利用者のための情報保障の提供
・ スポーツ実施に当たって必要となる用具等の貸し出し、保管
・ 必要となる用具・装具のフィッティング、調整、修理等のサポート（義肢装具士等との連携）

等の機能があるほか、

・ 障害のある人の活動拠点となる地域のスポーツクラブやサークル、活動状況等に関する情報収集、情報提供
・ スポーツに取り組み始めた障害のある人に対する、地域の活動拠点を探すための指導助言
・ 実際に、障害のある人が身近な場でスポーツができるようになるための、地域のスポーツ施設や指導員に対する支援や指導・助言
・ 身近なスポーツ施設や活動を支える人材の育成（指導員の養成・研修等）

等の機能を通じて、地域の身近なスポーツ活動の基盤を整備し、障害のある人のスポーツ活動の場がセンターから「身近な地域に戻っていく」ことが期待される。

○ そのうえで、地域に戻った障害のある人と障害のない人が、「ともに」スポーツを楽しむことができるよう、地域のスポーツ施設が、自主的かつ持続的にその機会を創出するために、障害者スポーツセンターはその有するノウハウの提供、企画の支援、人材の派遣などを行うことが期待される。障害者スポーツセンターがこれまで提供してきた域内のスポーツ大会の機会の創出は、障害のある人の身近な地域でのスポーツ活動を活性化する観点から、各地域や競技団体等と連携して、よりインクルーシブ、ユニバーサルな観点から行われることが望ましい。

○ こうした機能により、障害のある人が、より身近な地域のスポーツ施設で持続的にスポーツができる状況が生まれていくことを目指している。一方で、現状では、

・ 障害者スポーツセンター施設内で行う恒常的なスポーツ教室や地域への出張教室、指導者の派遣（地域のスポーツ施設でも企画や実施が可能なもの、参加対象が地域のスポーツ施設でも十分活動可能な者が中心となるようなもの）
・ スポーツに触れる機会を増やすための体験会、教室
・ ボランティアの情報集約、募集、派遣

等を、障害者スポーツセンターが実施していることもあるものの、より身近な地域でスポーツを実施できる環境が整備されていくにつれ、これらは主として基礎自治体レベルの地域のスポーツ施設や、地域のクラブやサークル等が担っていくことになるものと考えられ

る。

○　一方で、身近な地域のスポーツセンターでは、ノウハウや設備面で指導や対応が容易でない状況（重度障害のある人へのスポーツ指導など）に関しては、障害者スポーツセンターが中心となって、スポーツ機会の創出、確保に努めることを期待。

○　また、そのほか、地域の実情に応じて、

- 競技力向上のための指導
- 医事相談
- 専門的知見を活かした、スポーツ無関心層のニーズの掘り起こし、啓発、普及活動
- 関係機関と連携した用具、装具、補助具の開発
- 体育館、会議室等一部拠点の貸し出し（貸館としての機能）
- 各種事業や助成金などに関する相談機能

等、障害のある人のスポーツ活動のニーズ等に応じた様々な機能を付与していくことも考えられるのではないか。